



2023

塚原 公民館だより

4

令和5年6月24日



5月28日（日曜）に永明中学校校庭遺跡発掘調査の現地説明会が
開催されました。その説明会の概要をレポートします。

茅野市教育委員会文化財課では永明小学校・中学校建替え事業に伴い、社会体育館建設予定地（旧：練成館跡地）の約1500㎡の発掘調査を行いました。

今回の調査地は令和3年に発掘調査を行った新校舎建設予定地（旧：永明中学校校庭）のすぐ西隣の地点であり、前回に引き続き弥生時代後期の竪穴住居址が複数発見されることが予想されました。発掘調査の結果、想定通り弥生時代後期の住居址が発見されるとともに、同じ時期のお墓も5基が見つかり、住居群の隣が墓地になっていたことが確認されました。

弥生時代の住居の中には調理や明り取りのための炉（ろ）が切られています。この炉は地域によってさまざまなタイプがつけられましたが、この永明中学校校庭遺跡では大きく3種類の炉が見つかっているのです。さまざまな地域にルーツを持つ人々が集まってできた村だったのかも知れません。

縄文時代には集落の中央に墓地を作ることもありましたが（「環状集落」と呼ばれます）、弥生時代の遺跡では、居住域からは住居跡のみが見つかり、これとは別に近接地に墓のみからなる墓域がつけられるのが一般的です。今回の調査では、調査範囲の南側（家庭教育センター側）に住居址が集中して発見されたのに対し、お墓はその北側の、住居がつけられていない場所に作られています。まさに一般的な弥生時代の集落同様に、居住域に隣接して墓地が営まれていたことが確認されました。この村に住んでいた人々のお墓だったと考えられます。

